

第 2 回地域運営組織タウンミーティング 報告（高野口・隅田地区）

1 内容

(1) 前回の振り返り

わかやま NP0 センター 理事長 志場久起

(2) グループワーク

- ① 3 年後や 5 年後に達成したい目標は
- ② ①の目標のために、今自分が、地域ができることは

2 第 2 回将来の高野口地区を考えよう（令和 7 年 2 月 1 日(土)）

(1) 参加者 9 名 はぐくむ委員 6 名

(2) グループワーク

- ① はぐくむ条例の PR、地域に強い行政職員の育成なども必要か。
障害の有無、世代問わず生き生きと生活できる地域。観光を軸とした楽しい街に。
- ② 古民家の再利用、有名だがまだまだ知られていない場所を PR、
葛城館のそばにカフェなど誘客できる施設を設置。
街中の道路・坂道に命名し話題づくりを。SNS の活用。
高野山のおひざ元を活かした、街のキャッチフレーズづくり。

3 第 2 回将来の隅田地区を考えよう（令和 7 年 2 月 22 日(土)）

(1) 参加者 29 名 はぐくむ委員 2 名

(2) グループワーク（テーマを選んでワーク実施）

- ① 他の地区とのつながりを構築する。資金ではなく、共同でイベント・物品の融通。
子ども同士の交流、若年層の交流を図る。野菜市などもできるのでは。
- ② 休耕田を再生。有機野菜の栽培と販売を目指す。水路・農道の整備、希少種の復活
休耕田を借りる方策（区として借りる）を打つ。自給自足→軌道に乗れば販売
- ③ 住んで良かったと言ってもらえる地域、移住の促進、困りごとを助け合う取組
若年層を含めた全世代型イベントの開催。取組のリーダーの育成。
- ④ コミバス利便性向上、買い物・通院支援、援助部隊充実
若年層にも上記会議の出席を促す、移動スーパー等の協力者、移動手段の確保
- ⑤ 先代から受け継がれた行事の継承・伝承を目指す。世代間交流、高齢者と子どもが
集える場所づくり。地域の文化を子どもとともに学び交流する。
高齢者の特技を子どもに伝える、高齢者も家にこもらず活躍できる場を
- ⑥ 高齢者が住みやすい街。移動スーパー・訪問隊、見守り隊、コミュニティづくり。
独居老人と連絡を取る方法の確立、声かけ

4 参考

橋本市地域ワークショップ（2025.2.1）

ChatGPTがまとめた高野口とは（24年9月WSより）

■ 10年後の理想像

人口増加と活気ある地域社会

子どもが増え、若者が定住する町
子どもの声があふれる、明るく活気ある地域
若者の意見が反映され、学生も地域づくりに参加
町の祭りやイベント（元気ラリーなど）が続いている

子育てしやすい環境

子どもを産み育てやすい町
安心して子育てできる地域づくり
学校を地域の核とし空き教室を活用した交流の場を整備

働く場と経済の活性化

仕事があり、子どもが戻ってこられる町
商店街や通りの活性化で買い物やすく
織物業や観光資源を活用した産業振興
観光センターを設置し、高野山への玄関口として発展

住みやすいインフラと安心のまちづくり

認知症や障がい者、高齢者にも優しい町
自動運転車などの導入で移動が便利に

防災センター、公園（防災機能を兼ねる）の新設
紀の川沿いの公園整備

未来に向けた暮らしの充実

生活がしやすく、安心して暮らせる町
図書館の設置で学びの環境を整備
町中にテーマパークができ、地域の魅力向上

まとめ

「子どもや若者が増え、活気と笑顔あふれる町」を目指し、産業や観光の振興、子育て・教育環境の充実、高齢者・障がい者にも優しいインフラ整備を進めることが理想とされています。

橋本市地域ワークショップ（2025.2.22）

ChatGPTがまとめた隅田とは（24年9月WSより）

■ 10年後の理想像

① 住みやすい地域づくり

人口増加を目指し、移住を促進
近所で助け合える温かいコミュニティの形成
高齢者の見守りを充実させ、一人暮らしの高齢者も安心できる地域に
徒歩圏内で生活が完結する便利な町づくり

② 交通・インフラの充実

移動スーパーの充実で買い物の利便性向上
リモート医療を活用し、医療へのアクセスを確保
交通網の整備（コミュニティバスの増便など）

③ 地域活性化と世代間交流

若者が地元で定住し、世代を超えた助け合いができる町に
子どもが外で元気に遊び、地域全体が活気にあふれる環境づくり
歴史や文化を継承しながら、地域の魅力を高める

④ 農地整備と環境美化

休耕田をなくし、農地を整備することで景観や環境の向上
国道の拡張やインフラ整備を進める

⑤ 行政・地域運営の強化

高齢者が住みやすく、安心して暮らせる地域運営の推進
若い世代の地域運営への積極的な参加を促す
隅田地区全体を一体化し、より強い地域づくりを目指す

まとめ

「若者から高齢者まで助け合い、便利で安心して暮らせる地域」を目指し、交通・医療の充実、農地整備、世代間交流の活性化などが必要とされています。